



# News Release

08-D-1408  
2009年3月27日

国立大学法人 九州大学 (証券コード：－)  
長期優先債務格付据置：「AAA」(トリプルA)  
格付けの見通し：「安定的」

株式会社日本格付研究所(JCR)は以下のとおり長期優先債務\*の格付けを見直し、据え置きとしましたのでお知らせします。

\* 長期優先債務格付けとは、債務者(発行体)の債務全体を包括的に捉え、その債務履行能力を評価したものです。このうち、期限1年以内の債務に対する債務履行能力を評価したものを短期優先債務格付けと位置づけています。個別債務の評価(債券の格付け、ローンの格付け等)では、債務の契約内容、債務間の優先劣後関係、回収可能性の程度も考慮するため、個別債務の格付けが長期優先債務格付けと異なること(上回ること、または下回ること)もあります。

発行体：国立大学法人 九州大学

## 【据置】

(対象)	(格付)	(見通し)
・長期優先債務	AAA	安定的

## 【格付事由】

- 1911年に旧制帝国大学として設立。九州地方を地盤に展開、我が国の高等教育・研究を牽引する基幹大学の1校。大学、大学院何れも学生獲得力の強さはトップクラスにある。
- 国立大学法人の枠組みは、法人化後も独立採算制ではなく、国による教育・研究に係るソフト・ハードに関する手厚い財政措置が行われることを前提に設計されている。私立大学等との対比において強固かつ潤沢である等、高等教育機関としての財務基盤は堅く、その信用リスクは相当程度低位に抑えられている。しかし、国から措置される運営費交付金は、04年度から一定の効率化係数、経営改善係数等に基づき、第1期中期計画の最終年度である09年度まで削減が続く。この制度の下で各国立大学法人は個性を明確化し、経営の効率化、外部競争的資金の獲得に取り組んでいるが、これまで個々の大学に蓄積された教育・研究資源の格差は大きく、キャッシュ・フローの創出機会の差が様々な局面で生じ始めている。
- 研究拠点大学としての本学の学術領域は多彩かつ広範だが、特色ある学府・研究院制度を活用し、09年4月に設置される統合新領域学府に代表されるような学際・新領域分野の創出を続けている。また法人化以降、教員の情報データベースを整備・活用した組織横断的な研究プロジェクトの組成や、学内研究助成体制の強化等が奏功、グローバルCOEをはじめ外部競争的資金の獲得実績は、国公私立大学の中でも高い水準を維持し、上昇傾向を示している。
- 国内最大規模となる伊都キャンパスへの統合移転は、箱崎地区と六本松地区を中心に2019年度の完了に向け、目下進行中である。また、馬出地区の病院再開発は、09年度の新外来棟の完成で一巡するため、今後教育・研究・診療環境の大幅な改善と効率化が進み、長期的な経営基盤の強化が進むと考えられる。一方で中期的には

格付けは、信用すべき情報に基づいたJCRの意見の表明であり、その正確性、完全性、特定の目的への適合性等は一切保証されておりません。また、格付けは、信用リスクの判断や個別の債券、商業紙等の売買・保有を推奨するものではありません。格付けは原則として発行者から対価を受領して行っております。

※無断コピー・転送は固くお断りします。

株式会社 **日本格付研究所**

〒104-0061 東京都中央区銀座5-15-8 時事通信ビル  
<http://www.jcr.co.jp>

<情報提供電子メディア(検索コード)>

BLOOMBERG(和文:JCRA/英文:JCR) REUTERS(EJCRA)  
QUICK(和文:QR/英文:QQ) JIJI PRESS 共同通信JLS

<お問い合わせ先>

情報・研修部 TEL:03-3544-7013 FAX:03-3544-7026



# News Release

キャンパス統合移転に関し、国からの予算措置外の施設・設備整備費用や、病院施設等に係る借入金見合いとして措置される運営費交付金(債務償還経費)の減額基調等、財政上の負担をこなして行く必要がある。このため本学では、附属病院を含む全学ベースでの収支改善策を講じており、その効果も具現化しつつあることから、こうした財政面での制約も特段懸念すべき点はないとJCRは見ている。

- (5) 08年10月に発足した新執行部は、前執行部の基本路線を踏襲しつつも、大規模伝統校ならではのアカデミズムとマネジメントのバランスを一段と重視する姿勢にある。07年4月導入の「三位一体の改革」は、人事・予算等に係る総長のリーダーシップの発揮と、各部局の裁量範囲の拡大との両立を図るものだが、その定着と改善が進むことで本学の法人としての基盤は一段と強化される可能性がある。現時点では次期中期計画期間内の運営費交付金は、配分方法等不確定な状況にあり、その動向が本学に与える影響を見定めていく必要はある。しかし、JCRは行政、学生、卒業生、産業界等のステークホルダーからの広範かつ厚い支持基盤と、豊富な知的資源から生成される本学の将来キャッシュ・フローは、今後も高位かつ安定的に推移するものと判断し、格付けを維持するに至った。

以上  
(チーフ・アナリスト 吉田法男 ・ チーフ・アナリスト 殿村成信)

本件格付けを行うにあたり適用した主要な格付け手法は弊社のウェブサイト(<http://www.jcr.co.jp>)に「学校法人格付けの手法」として掲載されております。格付け手法は追加・変更されることもありますが、その場合は、時系列的に掲載します。本リリースの公表日と格付け手法の公表日(各手法が有効となった日)とを照らし合わせた上で、上記格付け手法をご参照ください。

格付けは、信用すべき情報に基づいたJCRの意見の表明であり、その正確性、完全性、特定の目的への適合性等は一切保証されておりません。また、格付けは、信用リスクの判断や個別の債券、コマーシャルペーパー等の売買・保有を推奨するものではありません。格付けは原則として発行者から対価を受領して行っております。

※無断コピー・転送は固くお断りします。

**株式会社 日本格付研究所**

〒104-0061 東京都中央区銀座5-15-8 時事通信ビル  
<http://www.jcr.co.jp>

<情報提供電子メディア(検索コード)>

BLOOMBERG(和文:JCRA/英文:JCR) REUTERS(EJCRA)  
QUICK(和文:QR/英文:QQ) JIJI PRESS 共同通信JLS

<お問い合わせ先>

情報・研修部 TEL:03-3544-7013 FAX:03-3544-7026